


社団法人 日本学生陸上競技連合
会 報
 第122号 2009年4月1日発行
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
 電話 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

平成21年度(2009年度) 社団法人日本学生陸上競技連合 事業日程

年	月	日	競技会・会議等	会場
平成21年 (2009年)	5月	30日(土)	第79回理事会	日本青年館(東京)
		30日(土)	第53回総会	日本青年館(東京)
	6月	12日(金)～14日(日)	2009日本学生陸上競技個人選手権大会	平塚市総合公園平塚競技場(神奈川)
	7月	7日(火)～12日(日)	第25回ユニバーシアード競技大会(陸上競技)	ベオグラード市(セルビア)
	9月	4日(金)～6日(日)	天皇賜杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会	国立競技場(東京)
	10月	12日(月・祝)	第21回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲市(島根)
		17日(土)	秩父宮賜杯第49回実業団・学生対抗陸上競技大会	平塚市総合公園平塚競技場(神奈川)
		25日(日)	第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	仙台市(宮城)
	11月	1日(日)	秩父宮賜杯第41回全日本大学駅伝対校選手権大会	名古屋(愛知)～伊勢市(三重)
		23日(月・祝)	2009国際千葉駅伝(学生選抜チーム派遣)	千葉市(千葉)
	12月	12日(土)	第55回指導者会議	調整中
		12日(土)	第80回理事会	調整中
23日(水・祝)		第7回全日本大学女子選抜駅伝競走	つくば市(茨城)	
平成22年 (2010年)	3月	14日(日)	第13回日本学生ハーフマラソン選手権大会	立川市(東京)
		14日(日)	第4回日本学生20km競歩選手権大会	能美市(石川)
		21日(日)	第13回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	松江市(島根)
		26日(金)～27日(土)	第35回学生幹部役員研修会	調整中
		27日(土)	第81回理事会	調整中
		27日(土)	第54回総会	調整中
未定	未定	米国遠征		

平成22年度に向けて調整中

2010年10月24日(日) 第8回全日本大学女子選抜駅伝競走 つくば市(茨城)

2010年11月28日(日) 第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 仙台市(宮城)

第12回日本学生ハーフマラソン選手権大会

主 催：(社)日本学生陸上競技連合・立川市陸上競技協会・昭島市陸上競技協会・立川市・昭島市・西武新聞社

主管・運営協力：立川市陸上競技協会 他

後 援：立川市教育委員会・東京女子体育大学・マイ・テレビ 他

期 日：2009年3月8日(日)

場 所：立川市緑町国営昭和記念公園と周回コース

◎：大会新記録

順位	氏 名	所 属	記 録	順位	氏 名	所 属	記 録
1	キラグ・ジュグナ	第一工業大学	◎1:02:24	26	中村 亮太	帝京大学	1:03:33
2	池田 宗司	駒澤大学	1:02:41	27	出口 和也	日本体育大学	1:03:51
3	星 創太	駒澤大学	1:02:47	28	栗原 巧	麗澤大学	1:03:53
4	若松 儀裕	東洋大学	1:02:47	29	鈴木 忠	中央学院大学	1:03:55
5	大西 智也	東洋大学	1:02:51	30	飯田 明德	駒澤大学	1:03:56
6	五ヶ谷宏司	専修大学	1:02:52	31	田村 優典	城西大学	1:03:59
7	五十嵐祐太	専修大学	1:02:52	32	坂口 竜成	上武大学	1:04:00
8	伊藤 正樹	国士舘大学	1:02:53	33	河野 晴友	東海大学	1:04:00
9	椎谷 智広	東京農業大学	1:02:59	34	大野 紘崇	中央学院大学	1:04:04
10	小林 光二	中央学院大学	1:03:02	35	井上 直紀	専修大学	1:04:06
11	大石 港与	中央大学	1:03:04	36	岩本 雄樹	駒澤大学	1:04:09
12	齋藤 勇人	中央大学	1:03:10	37	河野 健一	帝京大学	1:04:10
13	谷川 智浩	拓殖大学	1:03:11	38	小林 優太	明治大学	1:04:12
14	野口 拓也	日本体育大学	1:03:12	39	益田賢太郎	法政大学	1:04:12
15	川内 優輝	学習院大学	1:03:13	40	三田 翔平	城西大学	1:04:14
16	梁瀬 峰史	中央大学	1:03:15	41	石田 康雄	上武大学	1:04:16
17	佐野 広明	麗澤大学	1:03:16	42	真家 尚	拓殖大学	1:04:16
18	筱寄 昌道	日本体育大学	1:03:19	43	谷野 琢弥	日本体育大学	1:04:18
19	谷口 亮	第一工業大学	1:03:22	44	三浦 隆稔	中央学院大学	1:04:18
20	辻 幸佑	中央大学	1:03:22	45	磯 将弥	中央学院大学	1:04:19
21	高野 寛基	早稲田大学	1:03:25	46	久保岡諭司	日本体育大学	1:04:21
22	森 賢大	日本体育大学	1:03:29	47	岩田 真澄	山梨学院大学	1:04:22
23	後藤 敬	山梨学院大学	1:03:30	48	長尾 正樹	日本体育大学	1:04:22
24	厚地 翔太	第一工業大学	1:03:31	49	赤峰 直樹	山梨学院大学	1:04:24
25	藤原 庸平	立命館大学	1:03:31	50	安島 慎吾	専修大学	1:04:24

※完走者は566人

第12回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

主催：（社）日本学生陸上競技連合・まつえレディースハーフマラソン実行委員会

運営協力：中国四国学生陸上競技連盟・島根陸上競技協会・松江市陸上競技協会

後援：松江市・松江市教育委員会・島根県・島根県教育委員会・山陰中央テレビジョン放送株式会社・財団法人松江体育協会他

協賛：株式会社伊藤園

支援：島根県警察本部・島根県警察本部交通部交通機動隊・松江警察署

期日：2009年3月15日（日）

場所：まつえレディースハーフマラソンコース

順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	津崎紀久代	名城大学	1:11:53	26	阿南光	立命館大学	1:18:02
2	野村沙世	名城大学	1:11:54	27	堂谷知世	神戸学院大学	1:18:14
3	西川生夏	名城大学	1:12:04	28	大道優香	立命館アジア太平洋大学	1:18:18
4	上谷聡子	神戸学院大学	1:12:29	29	渡辺智子	新潟大学	1:18:21
5	齋藤千聖	城西大学	1:13:41	30	徳永琴乃	大阪学院大学	1:18:28
6	荻野恵理子	佛教大学	1:14:34	31	平田絵美	立命館アジア太平洋大学	1:19:04
7	須谷綾香	名城大学	1:14:43	32	小田切綾乃	日本大学	1:19:13
8	坂田優希	立命館大学	1:14:47	33	廣川征耶	玉川大学	1:19:15
9	金子智	佛教大学	1:14:53	34	仲間千華	大阪学院大学	1:19:24
10	酒井優衣	城西大学	1:15:03	35	大槻奈里	立命館大学	1:19:30
11	徳重佑梨	大阪体育大学	1:15:10	36	比嘉由理	大阪学院大学	1:19:34
12	遠藤陽奈	城西国際大学	1:15:15	37	会津恭子	城西国際大学	1:19:38
13	國仙幸子	松山大学	1:15:39	38	岩佐美紀	中京女子大学	1:19:44
14	廣芳優香里	玉川大学	1:16:00	39	佐藤友美	神戸学院大学	1:19:53
15	足立依實子	名城大学	1:16:04	40	蓑輪美穂	東北福祉大学	1:20:05
16	北村沙織	順天堂大学	1:16:05	41	志知野枝	神戸学院大学	1:20:16
17	大内唯衣	大阪体育大学	1:16:07	42	亀岡知美	関西大学	1:20:24
18	村山愛美	玉川大学	1:16:13	43	片岡未由希	城西国際大学	1:20:26
19	佐々木亜美	東京農業大学	1:16:43	44	工藤しずか	久留米工業大学	1:20:32
20	松永明子	立命館大学	1:16:58	45	小林美里	国士舘大学	1:20:52
21	脇本友理香	神戸学院大学	1:16:59	46	中島麻貴恵	東京女子体育大学	1:21:23
22	田村麻衣	東京農業大学	1:17:09	47	小西莉紗	大阪学院大学	1:21:52
23	川村仁美	関西大学	1:17:21	48	藤本洋子	大阪教育大学	1:22:00
24	野田春香	茨城大学	1:17:53	49	山本実加	中京女子大学	1:22:05
25	竹本紗代	京都産業大学	1:18:01	50	深堀美咲	鹿児島大学	1:22:19

※完走者は59人

第3回日本学生20km競歩選手権大会

主催：(財)日本陸上競技連盟・(社)日本学生陸上競技連合・能美市・能美市教育委員会
 後援：北國新聞社
 協賛：文部科学省・(財)地域活性化センター・石川県・石川県教育委員会・(財)石川県体育協会・石川県中学校体育連盟・アジア陸上競技連盟・能美市体育協会・NHK金沢放送局・テレビ金沢・エフエム石川・テレビ小松・ラジオこまつ
 運営協力：石川県寺井警察署・能美市交通安全協会・能美市街頭交通推進隊
 会場：財団法人日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース

【男子】

◎：大会新記録

順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	藤澤 勇	山梨学院大学	◎1:21:00	26	鶴崎健太郎	同志社大学	1:33:50
2	鈴木 雄介	順天堂大学	1:22:05	27	栗林 剛正	富山大学	1:34:42
3	長岩 大樹	山梨学院大学	1:25:49	28	村上 格	東京学芸大学	1:35:16
4	上田 勝也	京都教育大学	1:27:28	29	富田 悟志	国士舘大学	1:35:21
5	小坂 拓磨	日本大学	1:27:52	30	石飛 雅基	神戸大学	1:35:49
6	是枝 泉樹	久留米大学	1:27:52	31	内田 恵治	びわこ成蹊スポーツ大学	1:36:55
7	荒井 広宙	福井工業大学	1:27:59	32	田中 直也	国際武道大学	1:37:01
8	内藤 豪教	山梨学院大学	1:28:16	33	岡田 和貴	国士舘大学	1:38:32
9	日下 秀人	東洋大学	1:28:19	34	本馬 一樹	摂南大学	1:38:34
10	小林 友貴	東海大学	1:28:30	35	能村 健功	東海大学北海道	1:39:05
11	鈴木 基文	順天堂大学	1:28:33	36	畑山 太志	大阪教育大学	1:39:15
12	中林 大	明治大学	1:28:39	37	田口 雄助	上武大学	1:39:40
13	伊能勢剛人	国士舘大学	1:28:53	38	山田 辰巳	山梨学院大学	1:40:09
14	甲斐 大地	小松短期大学	1:29:16	39	曾我部靖之	城西大学	1:40:17
15	足澤 徳人	東洋大学	1:29:27	40	久慈 晃洋	岩手大学	1:40:55
16	山田 洋一	岩手大学	1:30:39	41	坂 康平	東北福祉大学	1:41:04
17	今滝 耕作	東洋大学	1:31:00	42	下田 聖典	群馬大学	1:41:07
18	谷垣 勝士	日本大学	1:31:24	43	津田幸之助	久留米大学	1:41:33
19	菊田 雅樹	東北福祉大学	1:31:26	44	菅野 雄大	東京大学	1:41:42
20	山口 貴史	東京学芸大学	1:31:29	45	渡邊 雄己	岐阜経済大学	1:41:55
21	奥 裕一朗	国際武道大学	1:31:30	46	中村 幸平	慶応義塾大学	1:42:09
22	須賀 祐介	福井工業大学	1:31:43	47	柳田 樹龍	志学館大学	1:42:45
23	古峨 能喜	神戸大学	1:31:51	48	今井 勇司	上武大学	1:43:18
24	青野 大地	山梨学院大学	1:33:32	49	藤永 健太	帝京大学	1:44:05
25	矢島 朋幸	山梨学院大学	1:33:33	50	山田 健太	高知大学	1:44:28

【女子】

順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	湖瀬真寿美	龍谷大学	◎1:30:49	12	中村奈都子	東北福祉大学	1:46:24
2	丸山 結	岩手大学	1:37:29	13	池田 千紘	小松短期大学	1:47:40
3	占部 磨美	同志社大学	1:39:15	14	荻野 好美	立命館大学	1:48:16
4	森本 結香	日本女子体育大学	1:39:39	15	栗原 一葉	朝日大学	1:48:19
5	道口 愛	国士舘大学	1:41:20	16	玉川 郁美	東海大学	1:48:37
6	坂本 可奈	小松短期大学	1:41:43	17	吉田 千恵	岩手大学	1:49:05
7	大里亜梨佐	城 西 大 学	1:43:28	18	高橋 和美	岩手大学	1:50:41
8	竹内 万里	宇部フロンティア大学	1:43:57	19	宮川 朋美	中部学院大学	1:51:20
9	越 弓恵	筑波大学	1:44:24	20	小田桐 尋	東洋大学	1:51:33
10	坂本 愛実	金沢大学	1:44:50	21	葦田智七実	福山平成大学	1:56:32
11	高橋 佑佳	小松短期大学	1:46:10	22	芳之内奈央	信州大学	1:56:55

第78回理事会議事録

期 日 平成21年3月20日（金・祝）13時00分から
場 所 日本青年館503会議室
出席者 保利耕輔会長、関岡康雄副会長・専務理事、青葉昌幸副会長、大西清司、尾縣 貢、神尾正俊、澤木啓祐、米谷元捷、金子今朝秋、岩壁達男、森本 葵、三條俊彦、安藤好郎、栗山佳也、伊東輝雄、和田正信、片峯 隆の各理事
委任状出席 園田裕四郎副会長、近藤龍彦理事
定足数 理事20名（うち委任2名）の出席により定足数を満たすので理事会成立
その他の出席者 石澤隆夫、田中淳浩の両監事、阿保雅行審判指導副委員長、蒲原一之メディカルコミッション委員、障子 恵女子副委員長、吉村篤司国際委員、福原雅史幹事長、北野史子秘書、佐藤由理会計、各地区学連幹事長
議長選出 保利耕輔会長を議長に選出
議事録署名人指定 和田正信理事、大西清司理事を議事録署名人に指名

○報告事項

第1号 前回理事会以降の会務について

<関岡副会長・専務理事>

昨年12月13日の理事会以降の会務について報告。

①競技会について

12月23日、つくば市にて第6回全日本大学女子選抜駅伝競走を開催、3月8日、立川にて男子の第12回学生ハーフマラソン、3月15日に松江にて第12回女子学生ハーフマラソン、同日に能美にて第3回学生20km競歩を開催。ハーフマラソンと20km競歩についてはユニバーシアードの代表選考会であり後刻に結果を報告。

②委員長会議について

2月27日に競技会に関する打ち合わせ。世界的経済不況の影響で4つの駅伝のうち、出雲全日本大学選抜駅伝競走以外の3つの駅伝の実施が予算面で厳しい状況。関係団体の担当者と数回にわたり折衝。

③会報について

第121号を1月1日付で発行。

第2号 平成20年度主催競技会の結果について

<尾縣理事・強化委員長>

①第12回日本学生ハーフマラソン選手権大会

3月8日、好天に恵まれ、1位はキラグ・ジュグナ君（第一工大）、その後2位から8位までが12秒の間にフィニッシュする混戦。

②第12回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

3月15日、強風の中開催、1位から3位までが1時間12分を切る好タイム。

③第3回日本学生20km競歩選手権大会

学生女子ハーフと同日に開催。男子優勝の藤澤 勇君（山梨学大）と2位鈴木雄介君（順大）が好記録。女子優勝の瀧瀬真寿美さん（龍谷大）は世界での活躍も期待。

第3号 日本陸上競技連盟理事会、評議員会について

<神尾理事・日本陸連派遣理事>

12月に行われた日本陸上競技連盟理事会並びに評議員会について報告。

①平成21年度主要競技会日程案について

日程案が示され、3月23日(月)に理事会で決定予定。

②第18回アジア陸上の代表選手選考競技会及び第5回東アジア陸上の代表選手選考競技会について

学連関係の競技会では第78回日本インカレ及び第33回全日本競歩(能美)が選考競技会。アジア陸上競技は11月10日から14日(広州)、東アジア陸上は12月10日から13日間開催。

③日本記録公認条件について

ドーピング検査を義務化。義務化される種目はオリンピック種目に限定。

第4号 平成20年度(2008年度)日本学生記録について

<福原幹事長>

男子3種目、女子4種目、計7種目の学生記録が誕生(17頁参照)

第5号 平成20年度日本陸上競技連盟秩父宮章の推薦について

<保利会長>

本連合名誉会員柗澤聖子さんを推薦、3月23日開催の日本陸連理事会で決定。

第6号 第25回ユニバーシアード競技大会(2009/ベオグラード)基幹役員及び代表選手枠・代表選考委員について

<関岡副会長・専務理事>

①基幹役員について

JOC(日本オリンピック委員会)からチームスタッフについてユニバーシアード大会の経験豊富な人選を要望。

監督は尾縣強化委員長、総務には山下強化委員。コーチの人選は選手の選考結果より保利会長一任(関岡副会長、澤木理事、尾縣監督で候補者を選考)。医師はメディカルコミッション委員から1名選出。トレーナーは男女各1名ずつ2名を依頼。

②代表選手選考委員について

金子今朝秋(理事)、伊東輝雄(理事)、片峯隆(理事)、山下誠(強化委員)、今村文男(強化委員)、鯉川なつえ(強化委員)に依頼。特別委員として関岡副会長、澤木理事。

③選考競技会について

一般種目については平成20年度主要競技会(日本インターカレッジ、実業団・学生対抗、その他競技会等)の競技結果を参考資料とする。

平成21年度競技会では、日本選抜陸上和歌山、アシックスチャレンジ、兵庫リレーカーニバル、織田記念国際陸上、静岡国際陸上などが重要選考競技会とする予定。

④代表選手決定期日について

JOC理事会で代表選手団が決定される期日が5月11日。陸上競技の代表は本連合で決定し、日本陸上競技連盟経由、JOCには5月10日までに候補者を届け出る。次回理事会が5月30日のため、理事会で候補者承認の手順を踏めない内容を説明、了承を得た。

⑤ハーフマラソン・競歩の代表選手について

選考は終了。後刻説明。他の種目の代表選手選考委員会は5月8日を予定。

<保利会長>

ユニバーシアードチームオフィシャルスタッフの選出に関する関岡専務理事からの話の件、会長一任を了承。

第7号 その他

<岩壁理事>

ユニバーシアード代表選考競技会について、各選考競技会に参加標準記録を突破して出場することになると考えるが、参加人数に制限があり、選考会に出場ができない学生競技者がいる可能性がある。そのようなことがないように日本学生陸上競技連合から、各選考競技会の主催者へ働きかけを依頼。

<尾縣理事・強化委員長>

参加人数に上限が設けてあるのは競技会運営をスムーズにするための縛りである。グランプリ大会への参加標準記録を切れなければ、ユニバーシアードで世界と戦う土俵には上がれない。またそれ以前に、学連独自の代表選考競技会参加標準記録を切れないと戦えないこともあり、参加人数の増枠は難しい。

<澤木理事>

この件については、日本陸上競技連盟アンダー23の強化の点からも再度強化委員会で検討する。

<田中監事>

各大学春先の対校戦で、標準記録を突破した競技者の扱いについて質問。

<尾縣理事・強化委員長>

シーズンベストとして評価の対象。その競技者が、昨年のインカレ等で活躍し、成績を残していればユニバーシアード代表選考の対象になる。

○協議事項

第1号 平成21年度事業日程（案）及び事業予算（案）について

<関岡副会長・専務理事>

①平成21年度事業日程

4月は前述の3つの選考競技会、5月30日に理事会・総会。ユニバーシアードの開催時期が例年よりも早まっているため、理事会での代表選手の承認ができない旨説明。

6月、日本学生個人選手権大会（平塚）ではユニバーシアード代表選手は既に決定。ユニバーシアード競技大会は7月7日から12日に開催。

9月、国立競技場にて第78回日本インカレ開催。審判指導委員会や強化委員会で長距離種目の夜間の部での実施を検討中。予算等の調整が必要、現段階では3日間開催の予定。

10月12日、出雲大学選抜駅伝競走大会、17日実業団・学生対抗陸上競技大会。（今回は実業団連合の当番で平塚競技場での開催）25日、全日本大学女子駅伝対校選手権大会開催。平成22年度から全日本大学女子選抜駅伝競走と開催日の入れ換え予定。

11月1日、全日本大学駅伝対校選手権大会（名古屋）開催。23日、国際千葉駅伝は学生代表チーム出場予定で事業日程に組み込み。

12月12日、指導者会議及び理事会、23日、全日本大学女子選抜駅伝競走開催予定。選抜女子駅伝は開催に向けて克服すべき課題が多く、5月の理事会で改めて説明。

平成22年3月14日、日本学生ハーフマラソン選手権大会、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会、日本学生20km競歩選手権大会が同日開催で日本陸上競技連盟に提出されている。女子ハーフマラソンの実

施日については、現在大会事務局側と検討中。後日報告。

3月19日、学生幹部役員研修会、20日、理事会総会開催。学生女子ハーフが21日開催に変更になった場合、理事会日程の変更可能性あり。次回5月の理事会までに検討する。

②平成21年度事業予算

平成20年度予算より縮小。(世界的金融危機の影響、特に駅伝の運営が困難)強化委員会では男女の駅伝対校選手権大会に対して費用負担削減案を検討。朝日新聞社からは昨年度予算の6割で実施提案。経常収入は競技者登録が増えるという見込みで増額。協賛金については20年度と同様、JR東日本及び大塚製薬両社より合計700万円。

事業収入は1600万円の減額(大学駅伝、大学女子駅伝の収入減によるもの、積水ハウス及びDHCがスポンサーを降る予定)。新たな協賛会社を探している状況。

事業支出額は、収入減から自ずと減額。(内訳:ユニバーシアード対策として国際交流費に850万円。競技会は850万円の縮小を予定。大学駅伝は、役員宿泊費を学連負担となることから経費削減が必要。

管理費は21年度は増額。内訳としては事務所の契約更新費が必要。租税公課費も増額。その他、予備費をユニバーシアード大会に充てることができるように100万円計上。

今年は総括表というかたちで説明。

<保利会長>

平成21年度事業日程案及び事業予算案は、後刻開催の総会に理事会案として提案。

— 承認 —

第2号 平成21年度主催競技会要項(案)について

<尾縣理事・強化委員長>

3陸上競技会、4駅伝、2ハーフマラソン、1競歩の主催競技大会の要項(案)について変更点、重点点、検討点を中心に説明。

①2009日本学生個人選手権大会の要項(案)について

要項の変更無し。参加標準記録を大幅に変更。昨年から名称を変更(チャンピオンシップ)6月開催へ。参加標準記録が甘かったため、大会運営に支障。2008年学生ランキング等を参考にし変更。

②第78回日本インカレ要項(案)について

9月4日～6日。長距離種目を夜間に実施すると3日からの開催となる可能性。要項について大きな変更無し。留意点として、リレー種目参加資格のある記録は平成21年度日本学生陸上競技連合登録者で編成されたチームの記録でなくてはならないため、卒業生(平成20年度登録者)がオーダーに入っている記録は認められない。個人選手権と同様の観点から参加標準記録が上がっている。日本インカレ開催時期は駅伝競走のシーズンが近いということもあり、長距離種目のエントリーが非常に少ない。地区学連の方から日本インカレも駅伝競走も出場するという指導を依頼。

③第21回出雲全日本大学選抜駅伝競走の要項(案)について

変更無し。シード校は必ず大会に参加するよう要請。

④第49回秩父宮賜杯実業団・学生対抗陸上競技大会の要項(案)について

変更無し。今回は実業団連合の当番。選手選考は日本インカレ上位から選出。選出されたら必ず参加するよう要請。フィールド種目は昨年と変更。

⑤第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の要項(案)について

変更無し。東北学連から東北学連選抜チームの参加願ひあり。承認の依頼。21年度までの各地区の登録

人数と成績・順位を得点化し、22年度大会に向けた基本枠の見直しを行う。

⑥第41回全日本大学駅伝対校選手権大会の要項（案）について

変更無し。女子の大会と同様に東海学連から東海学連選抜チームの参加願ひあり。承認の依頼。

⑦第7回全日本大学女子選抜駅伝競走の要項（案）について

変更無し。不況の折、今後変更点が出る可能性あり。

⑧第13回日本学生ハーフマラソン選手権大会の要項（案）について

変更無し。

⑨第13回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会の要項（案）について

検討事項あり。今年度行われた大会において、招待選手数が49名と非常に多く松江市の費用の面で負担となった。参加資格2)の③について伊東理事・強化副委員長を中心に検討中。ユニバーシアード選考の年とそうでない年の参加人数の違いなども加味しながら慎重に検討。

⑩第4回日本学生20km競歩選手権大会の要項（案）について

変更無し。

<和田理事>

学生女子ハーフについて、地元としてはユニバーシアード開催年以外の参加が少ないことは残念。標準A記録を破る学生が中四国学連にはいないため、競技者の出しようがない。地元枠等の措置で標準記録の扱いを柔軟設定するよう要請。

<尾縣理事・強化委員長>

ロード対策委員会の伊東理事・強化副委員長と検討。

<伊東理事>

標準記録を変えることも必要。

<関岡副会長・専務理事>

今年度学生女子ハーフ49名の招待選手のうち、キャンセルが13名出た。学生男子ハーフ845名のエントリーに対し278名が棄権。長距離関係のレースでエントリーしても出場しないという状況は問題。競技者本人が知らないうちにマネージャーが勝手にエントリーをしているというケースも少なくない。レースにエントリーしたら出場するということにもっと厳格な姿勢が必要である。

今年度の学生女子ハーフでは一般参加選手数が31名となっており、招待選手数と逆ならば人数的によかったと考える。来年度は参加者数の減少が予想されるが、対策が必要。

<澤木理事>

学生20km競歩の参加標準記録について、ロード種目で競技力が1番向上している種目である。アジア陸連認定競技会でもあり非常にレベルの高い競技者の参加があるため、標準記録の引き上げを要請。

<尾縣理事・強化委員長>

競技者が良い条件で競技できるよう、見直し検討。

<青葉副会長>

出雲の駅伝競走について、近年関東学連加盟の大学の棄権がある。関東学連としては大会主催者に失礼のないような対策。

— 承認 —

第3号 平成20年度連合栄章（功労章）について

<大西理事・総務副委員長>

平成20年度本連合功労章受章者について説明。

北海道、東北は該当者なし、瀬古利彦さん、大八木弘明さん(以上、関東)、北信越も該当者なし、市丸民治さん(東海)、水瀬安春さん(関西)、谷岡憲三さん(中四国)、満園良一さん(九州)、田中右一さん、石澤隆夫さん、岡田晃さん(以上、連合)を推薦。

勲功章については該当者なし。

— 承認 —

第4号 第25回ユニバーシアード競技大会(2009/ベオグラード)

ハーフマラソン・競歩及び一般種目の代表選手選考について

<尾縣理事・強化委員長>

ハーフマラソン代表選手は、学生ハーフで2位の池田宗司君(駒澤大)、3位の星創太君(駒澤大)、4位の若松儀裕君(東洋大)の3名選出。女子は学生女子ハーフで1位の津崎紀久代さん(名城大)、2位の野村沙世さん(名城大)の2名を選出。ハーフマラソンに関しては、春季のサーキットでの直接対決等で好成績を出した場合、更に代表選手の追加の可能性がある。

競歩代表選手について、男子は学生20km競歩1位の藤澤勇君(山梨学大)、2位の鈴木雄介君(順大)、女子は学生20km競歩1位の淵瀬真寿美さん(龍谷大)を選出。藤澤君については非常に良い記録で学生競歩を制する。2位の鈴木君についても前回のタイ・バンコク大会で4位入賞。淵瀬さんも日本で1番、2番を争う実力。男女ともに十分メダル獲得の可能性あり。

— 承認 —

第5号 連合主催駅伝について

<関岡副会長・専務理事>

以下の状況説明あり。

強化委員会とロード対策小委員会で駅伝の対校選手権という立場で検討。同じ対校選手権である日本インカレは参加費等を参加者側が負担しているのに対し、全日本大学駅伝、全日本大学女子駅伝は強化費等を支給する上、参加費の徴収もない。強化費等の支給額を6カ年で削減計画を作成している。主に旅費・滞在費についてはチーム側で負担すべきではないかという意見が委員会から出ている。

補助金等が出場チームに出るのは、駅伝がテレビ放映により盛んになってきた背景。しかし大学選抜駅伝の場合は旅費・宿泊費等を削ると、招待レースであるために出場辞退が出やすくなる。

これまでと同様に実施できるのは出雲だけである。(出雲についてはフジテレビ等と確認済み。)全日本大学駅伝については朝日新聞社から、昨年の60%の予算で行ってほしい旨の要望あり。全日本大学女子駅伝は大阪から仙台に開催場所を移転する際に読売新聞と本連合とで多大な負債もあった。駅伝対校選手権については男女の足並みを揃えたいことから現在ADK及び読売新聞社とも交渉継続中。駅伝対校選手権大会については男女ともに強化費20万円は継続するが、旅費を前回比70%に削減し、22年度には60%というかたちで削減を続け、いずれは全額削減する方針。

全日本大学女子選抜駅伝については、4つの駅伝の中で経済不況の煽りを1番受けている。テレビ東京と何度も話し合いを設け、保利会長とも相談をして大会開催を継続する方向で検討。今年度テレビ放映に5300万円で行ったが、21年度は2000万円で行うということや、旅費・宿泊費を削減するという意見が出ておりADKも交えて継続審議中。新たなスポンサーについても交渉中である。

以上の駅伝の対応について、次回理事会(5月30日)までにご提案できるよう時間的猶予の要請と理解を求める。

<澤木理事>

これは状況報告であって、協議事項ではないのではないかと。

<関岡副会長・専務理事>

これらのことを5月30日の理事会に諮ることをお願いしたい。

— 承 認 —

第6号 委員会の新設・見直しについて

<関岡副会長・専務理事>

学連競技者においてドーピング違反者が出ている現状。強化委員会の下部組織としてメディカルコミッション及びドーピング検査実施委員会を置いていたが、これらを切り離して医事委員会とアンチ・ドーピング委員会の新設を希望。

<澤木理事>

医事委員会委員長とドーピング委員会委員長が同一でないのが好ましいのではないかと。

<蒲原メディカルコミッション委員>

医事委員会とドーピング委員会では委員会の性格が違うため、当初は委員長を別にしたほうがいいのではとも考えたが、日本陸連では両委員会とも委員長が同一の方なので、学連としても役職を兼務するメンバーが自分を含め2名いるためいいのではないかと考えた。

<澤木理事>

移行措置としてやるのであれば、よろしいのではないかと。

<片峯理事>

新委員会の設置は定款上、どのような位置付けになるか。

<関岡副会長・専務理事>

定款第38条第2項による設置である。

<保利会長>

各委員会の委員の選出は、会長一任の要請。

— 承 認 —

第52回総会議事録

期 日 平成21年3月20日(金・祝)15時00分から
場 所 日本青年館503会議室
会員数 正会員数135名 出席数69名 委任状数53名
定足数68名(定款第25条第1項による)を満たし総会成立
議長選出 保利耕輔会長を議長に選出
議事録署名人名指 藤井邦夫会員、東川安雄会員を議事録署名人に指名

○報告事項

第1号 前回総会以降の会務について

<関岡副会長・専務理事>

第51回総会以降(5月)の会務について報告。

①競技会について

6月、日本学生個人選手権を平塚で開催。9月12日～14日には日本インカレ(国立競技場)開催。

10月13日、出雲全日本大学選抜駅伝競走、18日、実業団・学生対抗陸上競技大会(小田原)、26日に全日本大学女子駅伝(仙台)でそれぞれ開催。11月2日、全日本大学駅伝対校選手権大会(名古屋)開催。24日、国際千葉駅伝に日本学生選抜チームが出場、好成績を収めた。12月23日、全日本大学選抜女子駅伝(つくば)開催。3月8日、日本学生ハーフマラソン選手権大会(立川)。15日、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(松江)、同日に日本学生20km競歩選手権大会を能美でそれぞれ開催。

②会報について

8月1日付第119号、11月15日付第120号、1月1日付第121号を発行。

③日本学連創立80周年記念事業について

6月に平塚で記念パーティーを開催、9月に記念誌として連合80年史を出版。

④委員長会議について

陸上競技研究編集会議、連合の新公益法人化の検討、駅伝の予算削減等話し合い、駅伝については大会継続の努力を関係各方面と行っている。

第2号 平成20年度連合栄章(功労章)について

<大西理事・総務副委員長>

先刻の理事会にて、今年度は9名が本連合功労章受章者として承認の報告。授与式は9月の日本インカレで行う。

北海道、東北が該当者なし、瀬古利彦さん、大八木弘明さん(以上、関東)、北信越も該当者なし、市丸民治さん(東海)、水瀬安春さん(関西)、谷岡憲三さん(中四国)、満園良一さん(九州)、田中右一さん、石澤隆夫さん、岡田晃さん(以上、連合)

勲功章については該当者なし。

第3号 日本陸連理事会・評議員会について

<神尾理事・審判指導委員長>

12月に行われた日本陸上競技連盟理事会並びに評議員会について報告。

①平成21年度主要競技会日程案について

日程案が示され、3月23日（月）理事会で決定される。

②第18回アジア陸上の選考競技会及び第5回東アジア陸上の選考競技会について

学連関係の競技会では第78回日本インカレ及び第33回全日本競歩（能美）が選考競技会に指定。
アジア陸上は11月10日から14日（広州）、東アジア陸上は12月10日から13日に開催。

③日本記録公認条件について

ドーピング検査が義務化。義務化される種目はオリンピック種目に限定。

第4号 平成20年（2008年）日本学生記録について

<福原幹事長>

男子3種目、女子4種目の計7種目の学生記録が誕生（17頁参照）

第5号 平成21年度主催競技会要項について

<尾縣理事・強化委員長>

3陸上競技会、4駅伝、2ハーフマラソン、1競歩の主催競技大会の要項（案）について変更点、重要点、検討点を中心に説明。

①2009日本学生個人選手権大会の要項（案）について

要項の変更無し。参加標準記録を大幅に変更。昨年から名称を変更（チャンピオンシップ）6月開催へ。
参加標準記録が甘かったため、大会運営に支障。2008年学生ランキング等を参考にして変更。

②第78回日本インカレ要項（案）について

9月4日～6日。長距離種目を夜間に実施すると3日からの開催となる可能性。要項について大きな変更無し。留意点として、リレー種目参加資格のある記録は平成21年度日本学生陸上競技連合登録者で編成されたチームの記録でなくてはならないため、卒業生（平成20年度登録者）がオーダーに入っている記録は認められない。個人選手権と同様の観点から参加標準記録が上がっている。日本インカレ開催時期は駅伝競走のシーズンが近いということもあり、長距離種目のエントリーが非常に少ない。地区学連の方から日本インカレも駅伝競走も出場するという指導を依頼。

③出雲全日本大学選抜駅伝競走の要項（案）について

変更無し。シード校は必ず大会に参加するよう要請。

④秩父宮賜杯実業団・学生対抗陸上競技大会の要項（案）について

変更無し。今回は実業団連合の当番。選手選考は日本インカレ上位から選出。選出されたら必ず参加するよう要請。フィールド種目は昨年と変更。

⑤第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の要項（案）について

変更無し。東北学連から東北学連選抜チームの参加願いあり。理事会で承認。21年度までの各地区の登録人数と成績・順位を得点化し、22年度大会に向けた基本枠の見直しを行う。

⑥第41回全日本大学駅伝対校選手権大会の要項（案）について

変更無し。女子の大会と同様に東海学連から東海学連選抜チームの参加願いあり、理事会で承認。

⑦第7回全日本大学女子選抜駅伝競走の要項（案）について

変更無し。不況の折、今後変更点が出る可能性あり。

⑧第13回日本学生ハーフマラソン選手権大会の要項（案）について

変更無し。

⑨第13回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会の要項（案）について

検討事項あり。今年度行われた大会において、招待選手数が49名と非常に多く松江市の費用の面で負担となった。参加資格2)の③について伊東理事・強化副委員長を中心に検討中。ユニバーシアード選考の年とそうでない年の参加人数の違いなども加味しながら慎重に検討。理事会で、中四国学連の地域活性化のために、中四国の学生競技者が参加しやすいかたちを作ってほしい旨要望が出た。要検討事項。

⑩第4回日本学生20km競歩選手権大会の要項(案)について

変更無し。理事会にて標準記録の見直しを図ってほしいという意見が出た。競技者にとって記録を狙いやすいレースの条件を作るためにも要検討事項。

第6号 第25回ユニバーシアード競技大会(2009/ベオグラード)基幹役員及び代表選手枠・代表選考委員について

<関岡副会長・専務理事>

基幹役員は、JOC(日本オリンピック委員会)よりユニバーシアードの経験豊富な人選の要請あり。

監督は尾縣強化委員長、総務には山下強化委員。コーチの人選は選手の選考結果より。保利会長、関岡副会長、澤木理事、尾縣監督で決定。医師はメディカルコミッション委員から1名選出。トレーナーは男女各1名ずつ2名を依頼。プロのトレーナーに依頼すると経費大のため安価でお願いできる方法について検討中。

代表選手選考委員について、金子今朝秋理事、伊東輝雄理事、片峯隆理事、山下誠強化委員、今村文男強化委員、鯉川なつえ強化委員に依頼。相談役は関岡副会長、澤木理事。

以上を理事会案として提案。

○協議事項

第1号 平成21年度事業日程(案)及び事業予算について

<関岡副会長・専務理事>

①平成21年度事業日程について

4月は3つの選考競技会、5月30日に理事会・総会。ユニバーシアードの開催時期が例年よりも早まっているため、理事会での代表選手の承認ができない旨説明。

6月、日本学生個人選手権大会(平塚)ではユニバーシアード代表選手は既に決定。ユニバーシアード競技大会は7月7日から12日に開催。

9月、国立競技場にて第78回日本インカレ開催。審判指導委員会や強化委員会で長距離種目の夜間の部での実施を検討中。予算等の調整が必要、現段階では3日間開催の予定。保利会長の力添えにより、国立競技場の備品関係が整備された旨報告。

10月12日、出雲大学選抜駅伝競走大会、17日実業団・学生対抗陸上競技大会。(今回は実業団連合の当番で平塚競技場での開催)。25日、全日本大学女子駅伝対校選手権大会開催。平成22年度から全日本大学女子選抜駅伝競走と開催日の入れ換え予定。

11月1日、全日本大学駅伝対校選手権大会(名古屋)開催。23日、国際千葉駅伝は学生代表チーム出場予定で事業日程に組み込み。

12月12日、指導者会議及び理事会、23日、全日本大学女子選抜駅伝競走開催予定。選抜女子駅伝は開催に向けて克服すべき課題が多く、5月の理事会で改めて説明。

平成22年3月14日、日本学生ハーフマラソン選手権大会、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会、日本学生20km競歩選手権大会が同日開催で日本陸上競技連盟に提出されている。女子ハーフマラソンの実施日については、現在大会事務局側と検討中。後日報告。

3月19日、学生幹部役員研修会、20日、理事会総会開催。学生女子ハーフが21日開催に変更になった場合、理事会日程の変更可能性あり。次回5月の理事会までに検討する。米国遠征については未定。

②平成21年度事業予算

平成20年度予算より縮小。（世界的金融危機の影響、特に駅伝の運営が困難）強化委員会では男女の駅伝対校選手権大会に対して費用負担削減案を検討。朝日新聞社からは昨年度予算の6割で実施提案。

経常収入は競技者登録が増えるという見込みで増額。協賛金については20年度と同様、JR東日本及び大塚製薬両社より合計700万円。

事業収入は1600万円の減額。（大学駅伝、大学女子駅伝の収入減によるもの、積水ハウス及びDHCがスポンサーを降りる予定）新たな協賛会社のリサーチしている状況。

事業支出額は、収入減から自ずと減額。（内訳：ユニバーシアード対策として国際交流費に850万円。競技会は850万円の縮小を予定。大学駅伝は、役員宿泊費を学連負担となることから経費削減が必要。

管理費は21年度は増額。内訳としては事務所の契約更新費が必要。租税公課費も増額。その他、予備費をユニバーシアード大会に充てることができるように100万円計上。

今年は総括表というかたちで説明。

— 承認 —

第2号 平成21年度学生役員について

<関岡副委員長・専務理事>

第77回理事会（平成20年12月13日）において、平成21年本連合学生役員を選出。理事会案として提案。

学生役員

幹事長・福原雅史、秘書・北野史子、会計・佐藤由理、幹事・松田裕樹（北海道）、渋谷裕介（東北）、益田雄次、風間実可子、小島 緑、天ヶ瀬由貴、川口祐貴（以上関東）、野村知佐（北信越）、山口昌寛、佐々木敏也（以上東海）、間壁 恵、宿院 享、左海秀晃（以上関西）、藤谷智也（中四国）、井上裕太（九州）

— 承認 —

第3号 第25回ユニバーシアード競技大会（2009／ベオグラード）代表選手選考について

<関岡副会長・専務理事>

男女のハーフマラソン及び男女競歩について、代表選考終了。理事会案として提案。

<尾縣理事・強化委員長>

ハーフマラソンについて、男子は立川で行われた学生ハーフ、女子は松江で行われた学生女子ハーフの結果から選考。男子は2位～4位に入った3名を選抜（1位は留学生選手）女子は1位と2位の2名を選抜。ロード種目に関しては一般種目のような派遣人数の規程がなく、追加の可能性あり。

男女競歩については能美で行われた学生20km競歩の結果で選考。男子は藤澤君（山梨学大）と鈴木君（順大）の2名を選抜。藤澤君は好記録、鈴木君は2年前のタイ・バンコク大会で入賞の実績、2人とも今回の大会では入賞を期待。女子は大会新記録で優勝した淵瀬さん（龍谷大）を選抜。以上の8名を提案。

— 承認 —

第4号 委員会の新設・見直しについて

< 関岡副会長・専務理事 >

強化委員会の下部組織としてメディカルコミッション及びドーピング検査実施委員会を置いていたが、これらを切り離して医事委員会とアンチ・ドーピング委員会の新設、理事会案として提案。

— 承 認 —

第5号 その他

< 東川安雄会員 >

予算案については総括表だけでなく、内訳も明示するよう要請。

< 関岡副会長・専務理事 >

多くの公益法人の理事会等では総括表で予算案等を処理しているのが通例。詳細や内訳等を出すとその説明に時間を要するため、総括表にて準備。決算報告の時には、正式な書類を提出する。

— 承 認 —

2008年(平成20年)に誕生した日本学生記録

【男子】

種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
10000m	27' 27" 64	M.モグス	山梨学院大学	5/18	関東インカレ	国立
棒高跳	5m55	鈴木 崇文	東海大学	4/19	静岡県東部地区選手権	沼津
棒高跳	5m56	荻田 大樹	関西学院大学	5/17	関西インカレ	長居第二

【女子】

種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
200m	23" 48	高橋萌木子	平成国際大学	10/4	国民体育大会	大分総合
5000m	15' 13" 09	W.ワンガリ	立命館アジア太平洋大学	4/5	金栗記念選抜中長距離	熊本総合
400mH	55" 94	青木紗弥佳	福島大学	10/4	国民体育大会	大分総合
棒高跳	4m15	我孫子智美	同志社大学	5/9	関西インカレ	西京極

平成20年度社団法人日本学生陸上競技連合 栄章受章者

1. 功労章

地区	氏名	役職	年齢	出身校
北海道	該当者なし	—	—	—
東北	該当者なし	—	—	—
関東	瀬古 利彦 <small>セコ トシヒコ</small>	陸連・理事	52	早稲田大学
	大八木弘明 <small>オオヤギヒロアキ</small>	—	50	駒澤大学
北信越	該当者なし	—	—	—
東海	市丸 民治 <small>イチマル タミジ</small>	東海・評議員	59	中京大学
関西	水瀬 安春 <small>ミズセ ヤスハル</small>	連合・正会員 関西・評議員	52	立命館大学
中国四国	谷岡 憲三 <small>タニオカ ケンゾウ</small>	中国四国・評議員、監事	58	日本体育大学
九州	満園 良一 <small>ミツノ リョウイチ</small>	九州・評議員、コーチ	50	鹿児島大学
連合	田中 右一 <small>タナカ ユウイチ</small>	連合・審判指導委員 陸連・競技運営委員会審判部	61	中央大学
	石澤 隆夫 <small>イシザワ タカオ</small>	連合・監事	57	早稲田大学
	岡田 晃 <small>オカダ アキラ</small>	連合・総務委員	52	駒澤大学

2. 勲功章

氏名	役職	年齢	出身校
該当者なし	—	—	—

2009日本学生陸上競技個人選手権大会 要 項

1. 主 催 社団法人日本学生陸上競技連合
2. 後 援 平塚市、平塚市教育委員会
3. 運営協力 神奈川陸上競技協会、関東学生陸上競技連盟
4. 協 賛
5. 協 力
6. 期 日 平成21年6月12日(金)～14日(日)
7. 場 所 平塚市総合公園平塚競技場(ハンマー投：東海大学湘南校舎陸上競技場)
8. 競技種目 **男子18種目**
100m 200m 400m 800m 1500m 5000m 110mH 400mH 3000mSC 10000mW
走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投
女子17種目
100m 200m 400m 800m 1500m 5000m 100mH 400mH 10000mW 走高跳 棒高跳
走幅跳 三段跳 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投
9. 参加資格 1) 平成21年度(社)日本学生陸上競技連合登録競技者。
2) 平成20年1月1日より申込期日の前日までに別紙の標準記録に達した者。
3) 各大学1種目あたりの参加人数制限はない。
4) 個人の参加種目数の制限はない。
10. 申 込 料 参加者1種目1名につき2000円
11. 申込期日 平成21年 月 日() (地区学連締切)
12. 申込方法 1) 参加大学は配布された参加申込書に必要事項を記入し、申込期日までに地区学連へ提出すること。また、FAX・電話等による申し込みは一切受け付けない。
2) 申込料は申し込みと同時に納入すること。受領書は各地区学連が発行する。
3) 地区学連は参加大学の書類を取りまとめの上、平成21年5月26日(火)正午までに(社)日本学生陸上競技連合に申し込むこと。
13. 式 典 開式：6月12日(金)競技開始前
閉式：6月14日(日)競技終了後
14. 表 彰 第1位から第3位までの入賞者には賞状とメダル、第4位から第8位までの入賞者には賞状を贈与する。
15. 注意事項 1) 競技は平成21年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。
2) やむなく競技に出場できない場合は不出場届を提出すること。
3) 競技に使用する器具は主催者側が用意したものを使用しなければならない。但し、棒高跳用ポール、やりは個人所有のものが使用できる。尚、やりは招集完了時刻1時間前に器具庫にて各々検定を受け、許可されたものでなければ使用することはできない。
4) 計時はトラック競技全種目電気計時で行う。
5) 5000m、10000mWにおいては天候に応じて給水を行う場合がある。
6) ドーピングコントロールテストはJADA及びJAAFの規則に従い実施する。ドーピン

グコントロールテストを指示された競技者は、競技役員の指示に従ってテストを受けること。

7) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側において行うが、それ以後の責任は一切負わない。

16. その他 1) 参加者は健康保険証（コピー可）を持参のこと。

2) 宿泊についてはトップツアー（株）が斡旋する。希望者は別紙宿泊要項を参照のこと（所属学連に問い合わせのこと）。

2009日本学生陸上競技個人選手権大会 標準記録

種 目	男 子		女 子	
	記 録		記 録	
100m	<u>10.65</u>		<u>12.45</u>	
200m	<u>21.70</u>		25.50	
400m	48.30		58.20	
800m	<u>1.53.0</u>		<u>2.14.9</u>	
1500m	<u>3.54.5</u>		<u>4.38.0</u>	
5000m	<u>14.35.0</u>		3000m	9.40.0
			5000m	16.45.0
100mH	-		15.00	
110mH	14.80		-	
400mH	52.60		1.04.00	
3000mSC	<u>9.18.0</u>		-	
10000m 競歩	5000mW	21.30.0	5000mW	25.30.0
	10000mW	45.00.0	10000mW	54.00.0
	10kmW	45.00.	10kmW	54.00.
	20kmW	1.34.00	20kmW	1.49.00
走高跳	2.07		1.67	
棒高跳	4.95		3.20	
走幅跳	7.40		5.70	
三段跳	15.10		<u>11.80</u>	
砲丸投	<u>13.80</u>		<u>11.90</u>	
円盤投	42.00		<u>40.50</u>	
ハンマー投	53.00		33.00	
やり投	64.50		44.50	

下線：前回大会から変更のあった種目

100m・200m・400m・100mH・110mH・400mHについては、電気計時による記録のみ有効記録とする。

天皇賜杯 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会 要 項

1. 主 催 社団法人日本学生陸上競技連合
2. 運営協力 関東学生陸上競技連盟、社団法人東京陸上競技協会
3. 協 賛
4. 協 力
5. 期 日 平成21年9月4日(金)～6日(日)
6. 場 所 国立競技場(ハンマー投予選：未定)
7. 競技種目 **男子22種目**
 100m 200m 400m 800m 1500m 5000m 10000m 110mH 400mH
 3000mSC 4×100mR 4×400mR 10000mW 走高跳 棒高跳 走幅跳
 三段跳 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 十種競技
女子21種目
 100m 200m 400m 800m 1500m 5000m 10000m 100mH 400mH
 4×100mR 4×400mR 10000mW 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳
 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 七種競技
8. 参加資格
 - 1) 平成21年度(社)日本学生陸上競技連合登録競技者。
 - 2) ①平成20年1月1日から申し込み期日前日までに標準記録(別紙参照)に達した者は、
 下図の例に従い各種目1大学につき3名まで参加できる。
【参加人数と標準記録突破者の組み合わせ】

参加人数	競歩以外の種目			競歩
1名	B		A	B
2名	B	A	A A	B B
3名	B	A A	A A A	B B B
 - ②B標準突破者(特別枠)について
 平成21年度地区IC及び北日本IC・西日本ICの優勝者はB標準突破者とみなす。
 但し、競歩を除き各種目同一大学に地区IC優勝者、北日本IC・西日本IC優勝者、
 B標準記録に達した者がいた場合は、いずれか1名の参加とする。
 - ③リレーは平成21年度登録競技者の編成によるチームの記録でなければならない。
 - 3) リレー種目は1大学につき1チームのみの参加とし、6名連記とする。
 - 4) 個人の参加種目数の制限はない。
9. 申込料 参加者1種目1名につき2500円、リレーは1チーム4000円とする。
10. 申込期日 平成21年 月 日() (地区学連締切日)
11. 申込方法
 - 1) 参加大学は配布された出場申込書に必要事項を記入し、申込期日までに地区学連へ提出すること。また、FAX・電話等による申し込みは一切受け付けない。
 - 2) 申込料は申し込みと同時に納入すること。受領書は地区学連が発行する。
 - 3) 地区学連は参加大学の書類を取りまとめた上、平成21年8月 未定 正午までに(社)日本学生陸上競技連合に申し込むこと。

得点方法 各種目とも1位-8点、2位-7点、3位-6点、4位-5点、

5位－4点、6位－3点、7位－2点、8位－1点とする。

12. 式典 開会式：9月4日（金）9時30分
 栄章贈与式：9月6日（日）13時30分（予定）
 閉会式：9月6日（日）競技終了後
13. 表彰 男子総合優勝大学には天皇賜杯、女子総合優勝大学には秩父宮妃杯を贈与する。その他、男女各優勝大学には下記の賞を贈与する。
【男子の部】総合優勝大学：日本陸上競技連盟優勝旗
 トラック優勝大学：朝日新聞社楯
 フィールド優勝大学：毎日新聞社楯
 混成優勝大学：日本学生陸上競技連合杯
 多種目優勝大学：読売新聞社楯
【女子の部】総合優勝大学：日本学生陸上競技連合会長杯
 トラック優勝大学：日本学生陸上競技連合杯
 フィールド優勝大学：日本学生陸上競技連合杯
 混成優勝大学：日本学生陸上競技連合杯
 多種目優勝大学：日本学生陸上競技連合楯
14. 監督・代表者会議 平成21年9月3日（木）15時00分より国立競技場大会議室にて行う。その際に受付にてプログラム、ナンバーカード、他関係書類を交付し、会議にて注意事項の伝達、プログラム訂正を行う。指導責任者は必ず出席のこと。尚、この会議において不出場を申し出た場合はこれを承認する。
15. 注意事項 1）競技は平成21年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合せ事項により実施する。
 2）監督・代表者会議以降、やむなく競技に出場できない場合は不出場届を提出すること。
 3）競技に使用する器具は主催者側が用意したものを使用しなければならない。但し、棒高跳用ポール、やりは個人所有のものが使用できる。尚、やりは招集完了時刻1時間前に器具庫にて各々検定を受け、許可されたものでなければ使用することはできない。
 4）計時はトラック競技全種目電気計時で行う。
 5）5000m、10000m、10000mWにおいては天候に応じて給水を行う場合がある。
 6）練習は東京体育館の陸上競技場を使用することができる。
 7）ドーピングコントロールテストはJADA及びJAAFの規則に従い実施する。ドーピングテストを指示された競技者は、競技役員の指示に従ってテストを受けること。
 8）競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側において行うが、それ以後の責任は一切負わない。
 9）参加大学は開・閉会式の際、部旗を1本用意すること。尚、男・女総合優勝大学は校歌を演奏し部旗を掲揚するので準備しておくこと。
16. その他 1）参加者は健康保険証（コピー可）を持参のこと。
 2）宿泊についてはトップツアー（株）が斡旋する。希望者は別紙宿泊要項を参照のこと（所属学連に問い合わせのこと）。
 3）ポールの搬送について ポールは主催者側の案内に従って下記の住所に送付すること（別紙：送付案内参照）。
 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-2 国立競技場 事業課着付
 （社）日本学生陸上競技連合 宛 TEL：03-5304-5542

天皇賜杯

第78回日本学生陸上競技対校選手権大会

標準記録

種目	男子		女子	
	標準記録A	標準記録B	標準記録A	標準記録B
100m	<u>10.50</u>	<u>10.60</u>	<u>12.10</u>	<u>12.30</u>
200m	21.20	21.50	<u>24.90</u>	<u>25.20</u>
400m	47.00	47.50	56.00	56.80
800m	1.51.0	<u>1.52.5</u>	2.12.0	2.14.0
1500m	3.49.0	3.52.5	4.28.0	4.32.0
5000m	13.58.0	14.10.0	5000m 16.15.0	5000m 16.40.0
10000m	28.58.0	29.30.0	10000m 34.20.0	5000m 16.45.0 10000m 35.10.0
100mH	—	—	14.30	14.80
110mH	14.40	14.60	—	—
400mH	51.20	52.00	1.00.80	1.01.80
3000mSC	8.55.0	9.01.0	—	—
4×100mR	—	41.00	—	48.20
4×400mR	—	3.13.00	—	3.57.00
10000m競歩	—	5000mW 21.00.0	—	5000mW 25.00.0
	—	10000mW 44.00.0	—	10000mW 51.00.0
	—	10kmW 44.00.	—	10kmW 51.00.
	—	20kmW 1.32.00	—	20kmW 1.45.00
走高跳	2.13	<u>2.10</u>	1.73	1.69
棒高跳	<u>5.20</u>	<u>5.10</u>	3.60	3.40
走幅跳	7.60	<u>7.50</u>	5.90	5.80
三段跳	<u>15.60</u>	<u>15.40</u>	<u>12.30</u>	<u>12.00</u>
砲丸投	15.20	<u>14.50</u>	<u>13.60</u>	<u>12.90</u>
円盤投	46.00	44.00	45.00	<u>42.50</u>
ハンマー投	58.00	56.00	<u>46.00</u>	<u>42.00</u>
やり投	69.00	67.00	<u>49.00</u>	<u>47.00</u>
七種競技	—	—	<u>4680</u>	<u>4580</u>
十種競技	6900	6780	—	—

(注) ①十種競技については、標準記録に達していても棒高跳3m以上の実績のある者とする。

②第77回大会と変更のあった箇所にはアンダーラインを引いている。

③100m・200m・400m・100mH・110mH・400mH・4×100mRについては電気計時による記録のみ有効記録とする。

第21回出雲全日本大学選抜駅伝競走 開催要項

1. 主催 社団法人日本学生陸上競技連合、出雲市
2. 主管 出雲全日本大学選抜駅伝競走組織委員会
3. 期日 平成21年10月12日（月・祝）
4. コース スタート：出雲大社正面鳥居前（勢溜）～フィニッシュ：出雲ドーム前 6区間 44.5km
5. 参加資格
 - 1）平成21年度（社）日本学生陸上競技連合登録競技者。
 - 2）第20回大会上位3校（日大、駒大、第一工大）をシードチームとする。
但し、地区推薦と重複した場合は除く。
 - 3）（社）日本学生陸上競技連合推薦による大学単独16チーム
関東10大学、関西2大学、九州2大学、東海1大学、中国四国1大学
 - 4）選抜チーム
（社）日本学生陸上競技連合推薦による地区学連選抜4チーム
北海道学連1チーム、東北学連1チーム、北信越学連1チーム、中国四国学連1チーム
 - 5）米・アイビーリーグ選抜1チームチーム編成 1チーム10名（監督1名、マネージャー1名、選手8名）をもって編成する。
尚、参加申込の段階ではさらに選手2名を加えることができる。
6. 申込方法 主催者から送付される参加申込用紙に必要事項を記入し、平成21年9月18日（金）正午までに大会事務局まで申し込むこと。メンバーエントリー（正選手6名、補員2名）は、エントリー用紙1部と健康に関する誓約書を平成21年10月11日（日）14時30分～15時00分に大会事務局（島根厚生年金会館）へ持参提出のこと。
7. 大会事務局 〒693-8530 出雲市今市町70
出雲市文化企画部スポーツ振興課内
TEL 0853-21-2341 FAX 0853-21-6730
E-Mail sports@city.izumo.shimane.jp

秩父宮賜杯 第49回実業団・学生対抗陸上競技大会

1. 主催 日本実業団陸上競技連合、社団法人日本学生陸上競技連合
2. 後援 (財)日本陸上競技連盟、神奈川県、神奈川県教育委員会、平塚市、平塚市教育委員会
3. 運営協力 神奈川県陸上競技協会、東日本実業団陸上競技連盟、関東学生陸上競技連盟
4. 協賛 ミズノ株式会社
5. 期日 平成21年10月17日(土)
6. 会場 平塚市総合公園平塚競技場
7. 種目 **男子10種目**
100m 400m 800m 110mH 400mH 100m+200m+300m+400mR
走高跳 三段跳 砲丸投 ハンマー投
女子9種目
100m 400m 800m 100mH 400mH 100m+200m+300m+400mR
走幅跳 円盤投 やり投
8. 参加資格 1チーム1種目3名、リレーは6名連記とする。
9. 選手団編成 両チームとも監督1名、コーチ2名、マネージャー1名
男子競技者33名、女子競技者30名の合計67名で編成する。
ナンバーカードは実業団：男子 1～33・女子 1～30
学 生：男子101～133・女子101～130とする。
10. 日程 代表者会議：10月17日(土)10時00分 平塚競技場会議室
(予定) 開 式：10月17日(土)11時45分 平塚競技場
競技開始：10月17日(土)12時10分 同 上
閉 式：10月17日(土)15時20分 同 上
11. 得点・表彰 個人種目の得点は1位-6点、2位-5点、3位-4点、4位-3点、5位-2点、
6位-1点とする。リレーは1位-6点、2位-3点とする。
表彰は、総合並びに男女各優勝チームと個人において優秀な成績を収めた者に下記の賞を授与する。個人種目の表彰は第3位までとし、入賞者には入賞金品を与える。また、日本新記録・学生新記録・大会新記録を樹立した者には別の副賞を与える。
【団体】総合優勝チーム 秩父宮賜杯、内閣総理大臣杯
男子優勝チーム 文部科学大臣杯
女子優勝チーム 厚生労働大臣杯
【個人】最優秀選手賞 男子：実業団連合会長杯 女子：学生連合会長杯
敢闘賞 男女：平塚市長杯
最優秀新人賞 男女：河野一郎杯
12. 宿泊・旅費 1) 宿泊は10月16日(金)または17日(土)1泊の希望者を本部負担とする。
2) 旅費は100km未満は普通運賃。
500km未満は特別急行料金と普通運賃。
500km以上は特別急行料金と普通運賃及び航空運賃。
(注) 常磐線は水戸以北、中央線は甲府以西。

新幹線走行区間の100km以上は特別料金と運賃。
東海道・山陽新幹線は静岡以西。
上越・長野新幹線は高崎以北。
東北・山形・秋田新幹線は宇都宮以北。
学生は学割料金とする。

13. その他
- 1) 参加競技者にはチームユニフォームを支給する。
 - 2) 両連合承認の競技者についてはオープン出場することができる。
 - 3) ドーピングコントロールテストはJADA及びJAAFの規則に従い実施する。ドーピングコントロールテストを指示された競技者は、競技役員の指示に従ってテストを受けること。
 - 4) 当日競技会に出場しなかった者は、旅費・宿泊費等は自己負担とする（不慮の事故等の場合は除く）。
 - 5) 競技中に発生した傷害、疾病については応急処置は主催側において行うが、それ以後の責任は負わない。
 - 6) 参加者は健康保険証（コピー可）を持参のこと。

第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 開催要項

1. 主催 社団法人日本学生陸上競技連合、読売新聞社
2. 期 日 平成21年10月25日(日)
3. コー ス スタート：宮城陸上競技場～フィニッシュ：仙台市役所前市民広場 6区間38.6km
4. 参加資格
 - 1) 平成21年度(社)日本学生陸上競技連合登録競技者。
 - 2) 各地区学連から参加するチーム数は19大学とし、各地区学連の代表数は以下の通りとする。
関東6大学、関西4大学、東北・中国四国・九州各2大学、北海道・北信越
東海各1大学
 - 3) 昨年度大会上位6校(立命大・佛教大・名城大・東農大・玉川大・京産大)で参加を希望する大学。
 - 4) 総出場数は(2)の19大学と(3)の6大学の25チーム。
5. チーム編成 1チーム10名(監督1、マネージャー1、選手8)をもって編成する。尚、参加申込の段階ではさらに選手2名を加えることができる。
6. 申込方法 主催者から送付される参加申込用紙に必要事項を記入し、平成21年10月1日(木)正午までに読売新聞東京本社スポーツ事業部(〒104-8325東京都中央区京橋2-9-2、E-mail: spopro@yomiuri.com)に申し込むこと。メンバーエントリー(正選手6名、補員2名)はエントリー用紙1部と健康に関する誓約書を平成21年10月24日(土)に指定の時間・場所<未定>に持参提出のこと。
7. 大会事務局 <大会1週間前：10月18日(日)まで>
東北学生陸上競技連盟 TEL & FAX：022-295-2992
〒983-0046 宮城県仙台市宮城野区西宮城野11-10 3階
E-mail：tohokugakuren@k6.dion.ne.jp
HP：http://www.h7.dion.ne.jp/tgrr3f/tohokugakuren.html
<大会1週間前～大会当日まで>
未定

秩父宮賜杯 第41回全日本大学駅伝対校選手権大会 開催要項

1. 主 催 社団法人日本学生陸上競技連合、朝日新聞社、テレビ朝日、メ〜テレ
2. 運営協力 東海学生陸上競技連盟、愛知陸上競技協会、三重陸上競技協会
3. 期 日 平成21年11月1日（日）
4. コ ー ス スタート：熱田神宮西門前～フィニッシュ：伊勢神宮内宮宇治橋前 8区間106.8km
 - 1）平成21年度（社）日本学生陸上競技連合登録競技者。
 - 2）各地区学連から参加するチーム数は19大学とし、各地区学連の代表数は以下の通りとする。

関東6大学、関西・九州3大学、東北・東海各2大学、北海道・北信越・中国四国各1大学
 - 3）昨年度上位6校（駒大・早大・山梨学大・東洋大・中央学大・日大）で参加を希望する大学。
 - 4）総出場数は（2）の19大学と（3）の6大学の25チームとする。
5. チーム編成 1チーム13名（監督1、マネージャー1、選手11）をもって編成する。尚、参加申込の段階ではさらに選手2名を加えることができる。
6. 申込方法 主催者から送付される参加申込用紙に必要事項を記入し、平成21年10月14日（水）正午までに大会事務局へ申し込むこと（発送と同時に大会事務局へ電話連絡のこと）。メンバーエントリー（正選手8名、補員3名）は、エントリー用紙1部と健康に関する誓約書を平成21年10月31日（土）12時00分～12時30分に大会事務局へ持参提出のこと。

【大会事務局】
〒460-8488 名古屋市中区栄1丁目3番3号
朝日新聞社事業本部名古屋企画事業チーム内 全日本大学駅伝対校選手権大会事務局
TEL：052-231-8131（代表） FAX：052-232-0955

第7回全日本大学女子選抜駅伝競走 開催要項

1. 主催 社団法人日本学生陸上競技連合、株式会社テレビ東京
2. 期 日 平成21年12月23日(水・祝)
3. コース スタート：つくば中央公園～フィニッシュ：筑波大学陸上競技場 6区間 30.67km
4. 参加資格 1) 平成21年度(社)本学生陸上競技連合登録競技者。
2) 下記の20チーム。
 - ・大学単独チーム(12校)
第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会上位12校で参加を希望する大学
 - ・地区学連選抜チーム(8チーム)
北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国四国、九州 各1チーム
5. チーム編成 1チーム10名(監督1、マネージャー1、選手8)をもって編成する。
申込方法 主催者から送付される参加申込用紙に必要事項を記入し、平成21年12月 日()
正午までに(社)日本学生陸上競技連合に申し込むこと。尚、参加申込の段階ではさらに選
手2名を加えることができる。メンバーエントリー(正選手6名、補員2名)は、エントリ
ー用紙1部と健康に関する誓約書を平成21年12月22日(火)時 分～時 分に へ持
参提出のこと。

第13回日本学生ハーフマラソン選手権大会 要 項

1. 主 催 社団法人日本学生陸上競技連合、立川市陸上競技協会、昭島市陸上競技協会、立川市、昭島市、西武新聞社
2. 主管・運営協力 立川市陸上競技協会 他
3. 後 援 立川市教育委員会、東京女子体育大学、マイ・テレビ 他
4. 協 賛
5. 日 時 平成22年3月14日（日） 時 分スタート
6. コ ー ス 陸上自衛隊立川駐屯地滑走路・国営昭和記念公園とその外周道路
7. 参加資格 平成21年度（社）日本学生陸上競技連合登録競技者。
8. 競技規則 平成21年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
9. 申 込 料 1名につき3,000円
10. 申込期日 平成22年 月 日（ ）（地区学連申込締切）
11. 申込方法
 - 1) 参加大学は配布された参加申込書に必要事項を記入し、申込期日までに地区学連まで提出すること。尚、FAX・電話等による申込は一切受け付けない。
 - 2) 申込料は申し込みと同時に納入すること。受領書は各地区学連が発行する。
 - 3) 地区学連は参加大学の書類をとりまとめ、平成22年1月30日（土）までに本連合事務局宛に申し込むこと。
12. 表 彰
 - 1) 第1位から第3位までの入賞者には賞状とメダルを贈与する。
 - 2) 第4位から第8位までの入賞者に賞状を贈与する。
13. そ の 他
 - 1) レースは「立川昭島マラソン」と併催される。
 - 2) 参加者は健康保険証（コピー可）を持参のこと。
 - 3) 本大会の競技成績によりニューカレドニア国際マラソンへの派遣選手の選考を行う。

第13回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 要 項

1. 主 催 社団法人日本学生陸上競技連合、まつえレディースハーフマラソン実行委員会
2. 運営協力 中国四国学生陸上競技連盟、島根陸上競技協会、松江市陸上競技協会
3. 後 援 松江市、松江市教育委員会、島根県、島根県教育委員会、山陰中央テレビジョン株式会社、財団法人松江体育協会、他
4. 協 賛
5. 支 援 島根県警察本部、島根県警察本部交通部交通機動隊、松江警察署
6. 日 時 平成22年3月14日(日)
7. コー ス まつえレディースハーフマラソンコース
8. 参加資格 平成21年度(社)日本学生陸上競技連合登録競技者。

尚、以下の1)及び2)の条件を満たした競技者については、旅費及び宿泊費(前日1泊)を大会実行委員会が負担する。ただし、指定宿舎に宿泊しない場合は自己負担となる。

- 1) 基準記録A突破者
- 2) 地区学連推薦競技者(各地区学連2名以内)
 - ①基準記録B突破競技者(各地区学連2名以内)
 - ②上記の①の該当者が0名の場合は記録にかかわらず1名推薦できる
 - ③上記の①の該当者が1名の場合は記録にかかわらずさらに1名推薦できる

種目	基準記録A	基準記録B	記録有効期間
ハーフマラソン	1時間16分00秒	1時間19分00秒	公認記録であれば時期は問わない
10000m	34分20秒0	35分30秒0	平成21年1月1日から申込期日の前日まで
5000m	16分20秒0	16分50秒0	平成21年1月1日から申込期日の前日まで

9. 競技規則 平成21年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会実施申し合わせ事項による。
10. 申 込 料 1人 2,000円
11. 申込期日 平成22年 月 日() (地区学連申込締切)
12. 申込方法
 - 1) 参加大学は配布された参加申込書と健康に関する誓約書に必要な事項を記入し、申込期日までに地区学連へ申し込むこと。尚、FAX・電話等による申込みは一切受け付けない。
 - 2) 申込料は申込みと同時に納入すること。受領書は各地区学連が発行する。
 - 3) 地区学連は参加大学の書類を取りまとめの上、平成22年1月30日(土)までに本連合事務局宛に申し込むこと。
13. 表 彰
 - 1) 第1位から第3位までの入賞者に賞状とメダルを授与する。
 - 2) 第4位～第8位までの入賞者に賞状を授与する。
14. そ の 他
 - 1) レースに関する注意事項は大会実行委員会から通知される。
 - 2) レースは「まつえレディースハーフマラソン」と併催される。
 - 3) 参加者は健康保険証(コピー可)を持参のこと。
 - 4) 宿泊斡旋希望の有無などについては、「宿泊等申込書」に記入し、参加申込の際に併せて提出すること。
【指定及び斡旋宿舎 松江ニューアーバンホテル】
 - 5) 本大会の競技成績よりニューカレドニア国際マラソンの派遣選手の選考を行う。

第4回日本学生20km競歩選手権大会 要 項

1. 主 催 財団法人日本陸上競技連盟、社団法人日本学生陸上競技連合、能美市、能美市教育委員会
2. 共 催 北國新聞社
3. 後 援 石川県、石川県教育委員会、石川県体育協会、アジア陸上競技連盟
石川県中学校体育連盟、NHK金沢放送局、テレビ金沢、エフエム石川
ラジオこまつ、こまつテレビ
4. 主 管 石川陸上競技協会、全日本競歩能美大会実行委員会
5. 協 賛 能美市商工会、能美市観光物産協会、根上農業協同組合
6. 運営協力 石川県寺井警察署
7. 期 日 平成22年3月14日（日）
8. コ ー ス 日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース（2.0km周回コース）
9. 参加資格 1）平成21年度（社）日本学生陸上競技連合登録競技者。
2）平成20年1月1日から本競技会出場申込み締切日前日までに下記の条件を満たした競技者。
【男子】20km競歩 1時間50分00秒以内
（10000m競歩又は10km競歩：49分00秒以内）
【女子】20km競歩 2時間00分00秒以内
（10000m競歩又は10km競歩：58分00秒以内）
10. 表 彰 優勝者には優勝杯とメダルと賞状、第2位、第3位にはメダルと賞状、第4～第8位には賞状を贈与する。
11. 申 込 料 1名につき3,000円（申込料は理由の如何にかかわらず、返金は行わない。）
12. 申込締切 平成22年 月 日（ ）必着
13. 申込方法 1）別紙申込書に必要事項を記入し、申込締切までに指定振込先に申込料を振り込み、その振込書（控）を参加申込書と一緒に下記の申込先まで提出のこと。尚、学校単位でまとめて振り込む場合も参加申込書に添付のこと。
【申込先（大会事務局）】
〒929-0192 石川県能美市中町子88番地 能美市根上庁舎スポーツ課内
第33回全日本競歩根上大会事務局
TEL：(0761)-55-8514 FAX：(0761)-55-8530
14. 指定振込先 北國銀行根上支店 普通預金 口座番号 No.084573
J A 根 上 普通預金 口座番号 No.0719701
鶴 来 信 用 金 庫 普通預金 口座番号 No.1069155
15. 競歩クリニック 参加希望者は下記の場所に各自で集合すること。
・競技者打合せ会 ①競歩クリニック 時 分～ 根上文化会館
②競技者打合せ会 時 分～ 根上文化会館
16. 制限時間 下記の制限時間を経過した競技者は、交通整備、大会運営上競技を打ち切る。
男子20km競歩・・・ 時間 分
女子20km競歩・・・ 時間 分
17. そ の 他 レースは「全日本競歩能美大会」と併催される。

日本学生陸上競技連合 普通会员(学生登録者)数

2008年度(平成20年度)

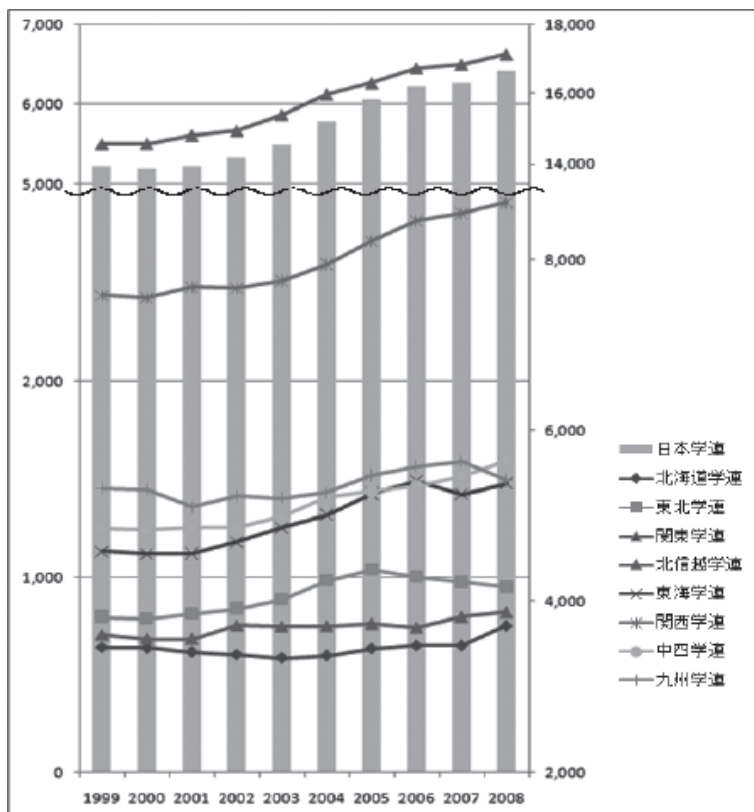
(単位:名)

地区	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四	九州	合計
男子	558	682	5,102	653	1,053	2,077	1,213	1,138	12,476
女子	196	252	1,521	169	427	844	385	364	4,158
合計	754	934	6,623	822	1,480	2,921	1,598	1,502	16,634

登録数の変遷(1999年度から2008年度)

(単位:名)

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四	九州	合計
1999	642	798	5,496	706	1,134	2,442	1,254	1,460	13,932
2000	638	789	5,503	685	1,122	2,430	1,246	1,454	13,867
2001	617	811	5,604	685	1,123	2,486	1,258	1,365	13,949
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657



地区学連から

東海学生陸上競技連盟平成20年度の登録者数は1,481名、本年度には過去最高となる1,500人を突破する見込みです。昨年35回を迎えた秋季の個人選手権にエントリーする選手も1,000人を超えました。選手の人数だけでなく、事業に関しても年々新たな試みを展開しています。平成16年に創立70周年を記念しての中国との相互派遣交流、18年には夏季大会の新設、19年に女子の対校駅伝を初開催、また年度末に台湾への遠征、20年度には台湾からの選手団を個人選手権に迎え入れました。強化委員会の主導による種目別の強化練習会も次第に熱を帯びたものとなって広がりを見せています。ひとえに競技者の競技力向上が第一目的ではありますが、その基本となる現場は各大学における日々の取り組みにあります。1,500人の登録があるということは1,500様の取り組み方があるということでしょう。多くの中で注目されるのは記録上位の選手であると思いますし、そういう選手は東海に幾人も在籍しています。しかしそれ以外にも見るべきドラマはたくさん進行しているはずなのです。

個人的に気に入っている物語はある主務のはなしです。大きい大学で主務を約束されたその選手は下の学年の頃から毎日のマネージング業務に追われて、思うように練習に取り組みなかったといいます。大きい大学ですから、やるべき仕事は他の学校に比べてもはるかに多いことでしょう。その中で彼の出した成果は、関わる人間の信頼を得るものでした。信頼とは常に期待に応えること、と最近のCMにありましたが、まさに体現したのが彼でした。真摯な姿勢は競技にもしっかりと向けられていました。早朝であったり業務後であったり、走る時間の確保も欠かすことはなかったのです。その後、主務としての彼を支える後輩が育ち、彼は競技に専念しやすくなり、競技者として開花しました。東海地区を代表するそのチームのなかで、彼は主力の一角に名を連ねています。学が立つことでも有名で、彼は大学院に進学する予定だといいます。これぞまさに学生陸上の花。1,500のうちのひとつです。

学生競技者の活躍する表舞台ですが、ちょっと裏を覗いてみましょう。20年度の功労章に東海学連から推薦されたその先生とは、一年前に初めてお会いしました。一言挨拶を交わただけでした。次に顔を合わせるのが半年以上後となるのですが、先生はわずか一度面会しただけの学生の名前を覚えて下さっており、会場で声をかけていただきました。記憶は愛情、という言葉が身に染み込んだ出来事でした。功労章の件で先生の仕事の一部を知ったのですが、全日本大学駅伝の発足に関わるなどは、初めて耳にしたことでした。先生に章のことをお伝えした電話口で言われたことは、「そんなことよりまた飲もうよ。君と私とは同郷だ」。人間の器とは何であろうかと思知らされました。

このような先生たちに支えられて今日の東海学連は回っています。地盤は強固でびくともしない。その上では目まぐるしく一番を競う模様、じっくりと地力を蓄える模様、楽しく清々しく心地よい運動模様。そういう風景が理想なのかなと今は思います。こう考えると、陸上競技という名前が、実際の陸地という意味だけでなく、先人の築いた豊かな土壌の上で行う競技としての意味合いも持っているように思えます。学生役員一同はその土地に、せめて水を撒くだけでもしたいと願っているのです。

東海学生陸上競技連盟
幹事長 山口昌寛

大阪市中心部から電車にて一駅。界隈に建ち並ぶ種々の企業オフィスを抜けた地にて、私たち関西学生陸上競技連盟の業務は進めております。関西圏の20大学28名の学生幹事が所属しております現在は、各々が春からのシーズンに備え、着々と構想を練り、四肢を動かし、時にはアルコールの力を拝借し、日々を充実させています。

さて、関西学連の特徴の一つとしまして「支部」の存在が挙げられます。関西圏の加盟校73大学の所在地より、兵庫支部（兵庫県）・大阪支部（大阪府、奈良県、和歌山県）・京都支部（京都府、滋賀県）の三支部に分け、それぞれに支部長を付け支部インカレ、審判講習会等を行っております。

支部インカレは毎年関西インカレ前の4月に開催するため、3月末に行う学連競技会より5月の関西インカレまで週末は大会が続く日程となっております。そのため、準備段階についても熾烈を極め、本来であれば新たな学年へ夢と希望を馳せ胸膨らませるものですが、我々関西学連の面々は春より始まる新年度の授業選びがとても重要となってきます。心機一転とし、関西インカレないし日本インカレの標準記録突破を目指す若き競技者の姿を目の当たりにし、否応なしに高ぶる競技者としての気持ちと同時に、学生としての自身に不安を感じるの私だけではないと思います。少々内容が脱線しましたが、支部インカレの存在によって各大学の競技者達も、そして我々も、冬季との別れと新年度の到来を肌で感じる事となるのです。

ではここで、関西学連主催の大会日程を紹介いたします。

- 4月 3日（金） 兵庫インカレ 尼崎市記念公園陸上競技場
- 4月10日11日（金・土）大阪インカレ 万博記念公園陸上競技場
- 4月18日19日（土・日）京都インカレ 西京極総合運動公園陸上競技場
- 4月30日（木） 関西インカレ（ロードの部） 長居第2・周回コース
- 5月 8日 9日（金・土）関西インカレ（トラック&フィールドの部）西京極総合運動公園陸上競技場
- 5月16日17日（土・日）関西インカレ（トラック&フィールドの部）大阪市長居第2陸上競技場

この文書に筆をおこしている現在、他の地区学連と同様に、関西学連も新年度に向けて着々と準備を整えています。新春の麗らかな風に乗り、走歩跳投のいかなる部門においても好記録が出ることを心から期待しています。またその為のより良い競技環境を築けるように、関西学連一同全身全霊で運営を行ってまいりますので、今年度も弊連盟をよろしくお願い申し上げます。

関西学生陸上競技連盟
幹事長 間 壁 恵

平成20年度新規B級公認審判員資格取得者数

（単位：名）

地 区	北海道	東 北	関 東	北信越	東 海	関 西	中国四国	九 州	合 計
男 子	61	37	363	51	72	375	12	53	1,024
女 子	12	18	131	18	37	155	6	23	400
合 計	73	55	494	69	109	530	18	76	1,424

平成21年度 大会ポスター・プログラム表紙のデザイン募集要項

（社）日本学生陸上競技連合では、以下の大会を開催するにあたって、大会ポスターとプログラム表紙のデザインを募集します。

応募要件は以下のとおりですので、事務局まで奮ってご応募ください。

- ・募集主催 社団法人 日本学生陸上競技連合
- ・募集大会 天皇賜杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会
開催期日：平成21年9月4日（金）～6日（日）
場所：国立競技場（東京）（予定）
大会特徴：母校の名誉と誇りをかけて、トラック&フィールドの大学日本一を決定する大会
- ・作品内容 大学生の陸上競技会にふさわしいデザイン、イラスト等
- ・応募資格 どなたでもご応募いただけます。
- ・応募方法 応募者の氏名・年齢・職業・住所・電話番号・デザインへの応募の旨を明記した紙を添えてください。
サイズはA4以上、A3以下とします。データ形式の場合はB2（ポスター原寸）、写真仕様の場合は解像度350dpiを目安としてください。
- ・応募締切 平成21年5月18日（月）必着
- ・問い合わせ・作品提出先
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2F
社団法人 日本学生陸上競技連合
TEL：03-5304-5542 担当：福原 雅史（フクハラ マサシ）
- ・選考 最優秀作品1作品、優秀作品2作品の3作品を選出し、最優秀作品に選ばれた作品は大会ポスター及びプログラム表紙に採用します。
- ・選考結果発表・表彰 選出された作品の応募者へ直接連絡します。
なお、入選した方には、賞状と副賞を授与します。
- ・その他 受領した作品はお返しできませんので、予めご了承ください。
提出いただいた作品の著作権は本連合に帰属するものとさせていただきます。作品のレイアウトによっては掲載時の都合により一部修正させていただくこともあります。
ポスター・プログラムにはお名前を掲載させていただきますので、ご了承ください。

※本連合HP（<http://www.iuau.jp>）もご参照ください。

社団法人 日本学生陸上競技連合

